



もいわ南麓

第75回 卒業式式辞

札幌市立藻岩中学校長 富川 浩

3年生の皆さん、卒業おめでとう！心から皆さんのご卒業を祝福します。

本日、保護者の皆様と共に、第75回卒業証書授与式を盛大に挙行できますことを大変嬉しく思います。本日は、普段から皆さんのことを温かく見守って下さっている矢野PTA会長様、学校評議員の青木様に御臨席いただきました。地域の皆様には、式への参加を御遠慮いただきましたが、離れた所から、お祝いしてくださっていることと思います。

思い起こせば、皆さんが入学した令和3年度は、感染症が5月に第4波、夏には第5波の中で一年遅れの東京オリンピック・パラリンピックが行われた年でした。2年生では緊急事態宣言、まん延防止等措置の繰り返しでしたが、冬の第8波をピークに、次第に収束に向かっていきました。

そして、3年生の5月に感染症が5類となり、マスク使用の緩和でお互いの顔が見えるようになり、対話も増えました。学校行事や生徒会活動には、全学年が一堂に会し、これからの時代に相応しい「新たな伝統づくり」を最高学年として立派に示してくれました。

皆さんは今を生き、次世代に生きていきます。その皆さんが、この時代だったからこそ、逞しく協働的に得た「生きる知恵」をさらに発展させ、これからの新たな日々の生活に臨んでももらいたいと願っています。

これからの人生においても、楽しく順調な時もあれば、様々な困難が立ちはだかることもあるでしょう。そんなとき、心に留めておく自分なりの言葉があると、それを乗り越えるきっかけとなります。

保健室前の廊下掲示板に「今・未来を変える座右の銘」が紹介されていました。

私はその中で、チャールズ・チャップリンの『空を見上げて。下を向いていたら虹を見つけることはできないよ。』という言葉が心に強く響きました。私は雨上がりの青空に架かる虹を見るのが大好きです。あまり見ることができませんが、虹を見ると、前向きな気持ちになることができます。辛い時や困った時には、「いい天気の日ばかりではない。雨の日もある。雨が上がれば『虹』が見えるかもしれない」と言い聞かせています。虹を見るためには雨は必須です。雨は「試練」、虹は「夢や目標」。夢や目標を達成に向けて試練にじっと耐え、希望を見据える。皆さんそれぞれの個性を生かした百四十の虹を描くことを、決意に加えてくれることを願っています。そして、自分の周りにも「虹を求めて、雨に打たれている人がいる」ことも忘れないようにしてください。

保護者の皆様に申し上げます。小学校から9年間、毎日、お子様の健やかな成長を願い、心を砕いてくださったことと思います。本日のお子様のご卒業は、思い入りのものがあると感じ、ここに改めてお祝いを申し上げます。これまで本校の教育に温かいご理解とご支援を賜りましたこと、高い席からではありますが厚くお礼申し上げます。

また、ご来賓の皆様には今後とも変わらぬご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

結びになりましたが、藻岩中学校の第七十五期の同窓生として、皆さんの夢や希望があふれる前途を祝して式辞といたします。

卒業生答辞

卒業生代表 穴田 美羽

冬の寒さが和らぎはじめ、日差しの暖かさに春の訪れを感じる今日の佳き日、私たち140名はこの学び舎を卒業します。本日は、お忙しい中ご出席くださいました、ご来賓の皆さま、保護者の皆さま、校長先生をはじめとした教職員の皆さまに卒業生を代表して感謝申し上げます。

真新しい制服に身を包み、藻岩中学校の門をくぐったあの日から、早くも3年の月日が経ちました。ここに集った仲間たちと共に、藻岩の山々を見渡せるこの学校で、私たちの中学校生活は始まりました。卒業証書を手にした今、たくさんのことを学び、経験してきた今日までの思い出がだんだんとよみがえってきます。

期待と不安の中迎えた入学式。私は新入生代表として、これからの学校生活での意気込みを宣言しました。振り返ってみると、それらをすべて実現できたという自信はありませんが、入学前の期待を大きく上回るような学校生活を送ることができたと実感しています。

1年生の時には新型コロナウイルスの影響で様々な制約がありました。そんな中でも、先生方が感染のリスクを最小限にして、私たちが楽しめるように学校行事をとり行なって下さったことで、たくさんの思い出をつくることができました。

2年生になり、私たちも先輩という立場になりました。初めてできた後輩という存在にどう接してよいか分からず、時には不安な思いをさせてしまったこともあったかと思えます。頼りない先輩でしたが、常に自分の120パーセントの力を出そうと、ひたむきに努力しているみなさんをいつまでも応援しています。

気づけば3年生になり、藻岩中学校で過ごすのも残り1年。すべての行事に「最後の」という言葉がつくようになりました。中でも一番の思い出は3年生の学校祭です。短い準備期間の中で全力を尽くしている姿や、当日には準備してきた以上のものを発揮しようとする姿には、同級生ながら圧倒されたことを今でもよく覚えています。

日々の学校生活の中で、私たちがここまで成長できたのは、先生方の存在があったからです。新型コロナウイルスの影響で教育現場に様々な変化があっても私たちの成長を第一に考えて下さり、先生方それぞれの個性を全開に、様々なことをご指導くださいました。またグローバル化が進む社会の中で私たちの将来を広げられるように、熱く語ってくださったこともありました。

先生方からの一つ一つの教えが今の私たちの礎になっています。これらのことを通して学ぶことの大切さを尊び、自分の適性を信じて将来を考えるようになりました。本当に感謝しております。私たちはこれから、それぞれの進路に進みますが、先生方から授かった学びをしっかりと活かし日々精進していきます。

そして、誰よりもそばで私たちを支えてくれた家族に一番の感謝を伝えたいです。時にはぶつかることもあり、素直になれない日もあったけれど、ずっと応援していてくれたことを忘れた日はありません。本当にありがとう。これからもよろしくお願いします。

最後に、3年間一緒に過ごしてきたみんなへ。なんといっても私たちはコロナウイルスに翻弄されてきた「コロナ世代」の一員です。日常生活において常に見えない敵と戦ってきました。そして、思い出せる友達の顔はほとんどがマスク姿です。ですが教室にはいつも、マスクに邪魔されないくらいの笑顔が溢れていました。思い通りにはならない学校生活で、私を支えてくれたみんなには感謝の気持ちでいっぱいです。どんな時もそばにいてくれて本当にありがとう。まだまだみんなと笑い合っていたいというのが正直な気持ちですが、私たちは前に進んでいかなければなりません。これからは新たな夢に向かって日々努力していきます。

夢の実現への道は決して平坦ではなく、時には孤独と戦いながら、険しい道を辿ることもあると思います。しかし、どんな大きな壁にぶつかったとしても、私たちは乗り越えられるはずです。藻岩中学校で学んだことを自らの糧として、これから先、どんなにつらいことがあっても、最後まであきらめず精一杯挑んでいきます。

最後になりますが、藻岩中学校のさらなる発展をお祈りし、答辞とさせていただきます。

